

平成28年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者の皆さんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。

この貴重な結果を大事にして、平成29年度に臨みたいと思います。

平成29年3月 ひしのみこども園 園長 千住由一郎

1. 園の保育と教育の目標

「園児の主体的、創造的活動を促すとともに、集団生活をとおして思いやりの心や社会性を身につけ、生きる力の基礎を培う

2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	逞しく
<ul style="list-style-type: none"> 感性豊かな子 あいさつのできる子 	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心に富む子 自分で考え創造する子 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで運動する子 健康や安全に気をつける子

3. 保育と教育の方針

(1) 子どもたちが園庭やホールで、進んで身体を動かし、のびのびと遊びを楽しむよう、環境構成を工夫する。
 (2) 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量などに対する関心や活動意欲を大切に受け止め、子どもの知的発達を促す場作りを工夫する。
 (3) 保護者と連携し、日常生活における基本的な生活習慣が身につくよう努めるとともに、集団生活を通して、社会性や創造力、優しさ、たくましさなどを育てる。
 (4) 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育て、知的発達を促し、人間力の基盤を育てる。
 (5) 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また、自然の恵みに感謝する気持ちを持たせるとともに、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身につけさせる。
 (6) 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
 (7) 節水、節電、ごみの減量など身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。また、家庭との連携により具体性を高くする。

4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準	
A 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が90以上		A 園の自己評価を納得できる	
B 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上		B 園の自己評価を大体納得できる	
C 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満		C 園の自己評価をあまり納得できない	
		D 園の自己評価を納得できない	
領域	評価の観点	自己評価	関係者評価
運営	1. 教育方針の周知・反映	A 園からのお便りやホームページ、会合などを通して、保護者および職員に、ほぼ周知できている。	A 園の評価に納得できます。
	2. 運営体制の確立	A 未満児部と以上児部の確立が進み、職員相互の連絡や申し送りが確実になされ、安定した保育を保つことができた。	A 園の評価に納得できます。
	3. 教育・保育への意欲	A 研究保育を行い、力量を高めたいという思いが評価に表れており、また、保護者は教育・保育を高く評価している。	A 園の評価に納得できます。
	4. 特色ある教育活動	A 職員は、園の特性を生かして様々な行事に取り組み、保護者はそれを高く評価している。	A 園の評価に納得できます。

体制	5. 施設・設備の安全管理と有効活用	A	毎月の安全点検で、安全を確かめ、修理などを通して、安全・有効活用に達している。	A	園の評価に納得できます。
	6. 危機管理	A	月一回の定期避難訓練及び毎日の連絡会の申し送りによって、目標は達成している。保護者の安心感も高い。	A	園の評価に納得できます。
	7. 職員への信頼性	A	子どもの引き取りや夕方の引き渡しの際の申し送りを行い、ほぼ園での様子を伝えている。	A	園の評価に納得できます。
日々の保育	1. 遊びの指導	A	園庭やホールが、多目的に利用される中で、計画的に場を設定し、物を工夫した遊びにつなげることができた。	A	もっと中多久公園を利用されても良いと思います。
	2. 道徳性の涵養	A	場面に応じ、機会をとらえて、規範意識などを高める指導を行うことができています。	A	園の評価に納得できます。
	3. 生活習慣	A	挨拶、うがい、手洗いなどの基本的な生活習慣の形成について、日々の指導や保護者との連携により定着しつつある。	A	園の評価に納得できます。
	4. 身近な人々への親近	A	地域の方々や、中・高校生との交流、また、施設訪問等の幅広い体験と交流により、ほぼ目標は達成された。	A	園の評価に納得できます。
	5. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や感染症の情報提供、発育測定の実施と報告により、保護者の理解を得ている。	A	感染症の状況が分かるようにメールで情報を配信されてはどうでしょう。
	6. 園生活への充足感	A	園児個々の状況に応じた支援を心がけ、全職員で共通理解して指導する事により安定した園生活を得ている。	A	園の評価に納得できます。
	7. 幼小の接続期指導	A	小学校の集団指導の方法を取り入れたり、小学校との交流を通して、なめらかな接続に努めている。	A	小学校職員が夏休みに園を訪問するなど、連携が良くてきています。
地域との連携	1. 他の団体や機関との連携協力	A	園行事への協力依頼や、保育参加の受け入れ、福祉施設への園児の訪問など、各種団体の協力を得て幅広い保育が実現している	A	園の評価に納得できます。
	2. 食育の推進	A	給食便りによる啓発、親子カレー作りや、全園児参加の豚汁会など、栽培活動や調理活動を進めて、ほぼ、目標は達している。	A	昨年度Bでしたが、Aとなり素晴らしいと思います。
	3. 生命に気付く環境	A	昆虫や小動物の飼育や野菜や草花の栽培、土いじりや水かけ等による体験の成果を、教員も保護者も認めている。	A	園の評価に納得できます。
	4. 絵本との出会いと読書活動の啓発	A	文字に親しむ、文章に親しむ、読書や読み聞かせを通して、自分の世界を膨らませることにつながっている。	A	修理が必要な絵本があるようです。
	5. 開かれたこども園	A	園だより、学級だより、ホームページ、園の掲示板、バスの掲示ボードや、園開放日、一般参観日などを通して理解を得ている。	A	本年度は、メールも利用されている。

5. 関係者委員会のコメント

全体的に保護者と教職員の評価の結果は高めで、園の方針が保護者に周知され、園の運営、実践も十分に認められ、信頼を得ていることがわかります。また、全体的に園と保護者の関係は良好であると思われます。

素晴らしい結果を保護者等にも大いに紹介・PRいただき、更に園と家庭との連携強化に努めて下さい。

子どもが毎日、安心して過ごせるよう危機管理や安全管理が十分なされています。職員が真に子どもの成長を願い日々努力されています。

保護者の評価に対して、教職員一人一人がきちんと受けとめ改善されているので、とても良いと思います。まず、子どもを第1に考え、保護者との会話を心がけていただけることに安心しました。

保育士養成校の付属園としての実習生受け入れについての評価や、認定こども園としての子育て支援「ひだまり」の評価を取り組まれても良いと思います。

「とてもそう思う」と「ややそう思う」の数を更に分析して、次年度の取組に活かす工夫をやってください。

課題となる内容を十分に精査して、すぐに対応できそうなものから、取り組んでいかれると良いと思います。また、新制度の認定こども園になったので、職員数に合った仕事量に削減を考えて良いかと思えます。

6. 総合評価と次年度への課題

今年度は、全項目でA(職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が90以上)と自己評価し、外部評価委員の方からも、A(園の自己評価を納得できる)との評価をいただきました。これは園の方針を保護者と職員が共通理解し、園での教育・保育活動に対して信頼されていると考えます。しかし、自己評価を分析すると、改善すべき点が出てきましたので、来年度はできる事から改善していきたいと考えております。

今年度は新制度の認定こども園となり2年目となりますが、昨年度同様に、全国一斉に新制度に移ったため、佐賀県内でも保育教諭や臨時の保育士が不足しました。しかし、常勤職員・非常勤職員も含め全職員一体となり、知恵をしばり現状の打開を図ってきました。

平成30年度より認定こども園は学習指導要領改訂による教育・保育が全面実施となります。来年度は、各園で学習指導要領改訂の内容を職員への周知を行います。それに伴い、学習指導要領改訂の内容に対応した、教育・保育カリキュラムの見直しをする事も大切となってきます。

来年度も、「やさしく、かしこく、たくましい」ひしの子どもの成長を願って、いろいろな工夫を行い、様々な課題等を乗り越えていきたいと考えています。